



読書週間



前期読書週間ポスター：3B K

6月8日～14日は読書週間です！
期間中は貸出冊数が8冊になります！

図書委員会では年に2回、読書週間の期間を設け、全校へ放送や、朝の玄関で呼びかけをしています。左のポスターも、各クラスに掲示します。

この機会にたくさんの本を借りてみてください♪

図書室の本、借りっぱなしになっていませんか？

借りている本の返却期限を確認しましょう！



- 図書室の本は貸出期間が1週間です。
- 読み切れなかった場合は、図書室まで延長の手続きをしにきてください。
- 次に予約が入っていない場合は何度でも延長できます。
- 返却日が分からなくなってしまった場合は、いつでもカウンターでたずねてください。

図書委員広報班のおすすめ本

『ジャッジメント』小林由香:著/双葉社

残酷な事件が起きたとき、誰もが考えたことがあるんじゃないだろうか。「犯人も同じ目に遭わせてやればいいのに」と。そんな思いに答えた法律がつくられた。殺人事件の加害者を、遺族が自ら同じ方法で処死することができる復讐法。応報監察官、応報執行者の立場や想いに心が揺れ乱され、深く考えさせられるような物語でした。薄めの本だけれど、とても重い本です。(4C 0)

＜この本は図書室にありません。読みたい方はリクエストしに来てください♪＞

芸術鑑賞

今年の芸術鑑賞はバレエ「 Coppélia」。

事前にストーリーや見どころを予習してから当日を迎えましょう！

[933/シ]『バレエものがたり』アデル・ジェラス：作，神戸万知：訳/岩波書店
まずは「Coppélia」のあらすじから。バレエの世界が物語になった一冊です。「Coppélia」のお話は約20ページ。朝読書にパラリと読んで、予習完了！

[769]『名作バレエ50鑑賞入門』渡辺真弓：監修/世界文化社
主要バレエ50作品の「物語」「みどころ」「歴史」などポイントを絞ってわかりやすく解説した一冊。もちろん「Coppélia」も載っています。要チェック！

[769/N]『バレエの見方』長野由紀：著/新書館
作品の見どころ、どう見ていくか、バレエを楽しむポイントをわかりやすく解説しています。作品ごとに解説されているので、Coppéliaの章を読めば見どころもバッチリ！

[769/M]『バレエに連れてって!』守山実花：著/青弓社
バレエ初心者向けの一冊。「バレエってどうやって観るの?」というあなたにおすすめ。著者が初心者の立場になって話を進めたい!ということで、バレエ用語を使わずに説明しています。チケットの買い方から当日劇場内での諸注意など実用的な情報が満載。

[769/S]『バレエへの招待』鈴木晶：著/筑摩書房
これまでのバレエの流れを、様々なバレエ作品と絡めて解説しています。もちろんCoppéliaに関する章も。簡単なあらすじも載っていますので、そこだけ読むのでもいいかもしれません。バレエ好きはついつい読み進めてしまう一冊。

[文庫 908/5]『ちくま文学の森 思いがけない話』筑摩書房
「Coppélia」という作品はホフマンの『砂男』という話からヒントを得て創られたお話です。興味のある人は砂男も読んでみましょう。本校図書室では、この文庫本に収められています。

[769/K]『バレエ用語辞典』川路明：編著/東京堂出版
よく聞くけど「ピルエット」ってどういう意味? 「プリエ」、「ルルベ」、「グリッサード」……等。バレエをやっている人は「知ってる!」って踊り出しちゃうかもしれませんね。でもポーズは分かっているけど、本来の言葉の意味を知っている人は少ないかも? 気になる言葉があったら調べてみてください。バレエをやったことがない人も、こんなに単語があるの!? と驚くはず。どんなポーズなのかは、周りの経験者に聞いてみて。

